

# 全国でも珍しい水防設備

# 畳堤改良

西播磨を流れる揖保川で、洪水になつた際に使用する「畳堤」の補修工事が始まった。国土交通省・姫路河川国道事務所が、畳を差し込むコンクリート枠を炭素繊維シートで包んで強化する一方、塗装も川面などが鮮やかに見えるよう工夫している。(豊田瑞樹)

## 揖保川沿い工事

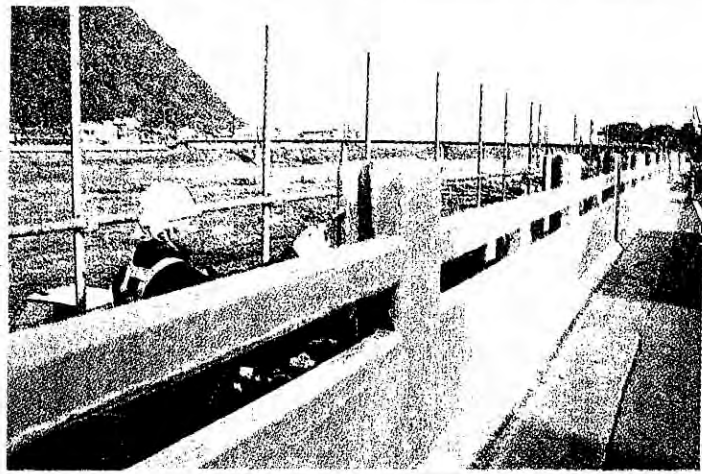
畳堤は、揖保川両岸に沿って龍野市部分が二七キロ、揖保川町部分が二百五十キロ、御津町部分が百六十キロある。全国的にも、宮崎県延岡市の五瀬川、岐阜市の長良川の計三河川にしかない。いずれも昭和初期から戦後にかけて作られたもので、河川の増水時のみ、畳を倉庫から出して枠に差し込むため、日ごろは沿道を走る車からも河川を眺めることができる。

建設から五十年以上たち、畳を差し込むコンクリート枠(高さ約一・五メートル、幅約二メートル)にひびが目立ち始めたため、同事務所が本年度から本格的な補修工事に着手した。現在は龍野市の一・一キロ

## 枠を強化／色優しく

部分に取り掛かっており、枠に炭素繊維シートを張り付けて強度と耐久性を高めている。また、目に優しい濃灰色に塗装することで、沿道を走るドライバーの気分を落ちつかせ、川面や河川敷の色が鮮やかに浮かび上がるよう工夫している。

補修が始まった揖保川の畳堤。龍野市龍野町富永



龍野市消防本部によると、畳堤を使うほどの洪水はこれまでになかったが、消防団や地元住民による設置訓練を行っており、いつでも、畳を活用できる態勢を整えているという。